



■結いのまち、大崎町

「Mom」【大崎中学校便りからの一部抜粋】

大崎の子どもたちのために学校、家庭、地域が大切にする合言葉に「Mom」とあります。

M：見つめる o：思いをめぐらす m：向き合う で「Mom」

近隣市町や本町で新型コロナウイルス感染者が出たときにも、過度に心配することなく、正しい情報に基づいた冷静な対応をするべきです。慌てる必要のないことに慌てている大人の態度を子どもが見て学習します。日ごろから周囲の大人がMomの意識を持って人に接していれば、子どもはMomの習慣を身につけてくれるのではないのでしょうか。

自分の生命を守ることは最も重要ですが、同じくらい他者の生命や人権も大切にする事で、結いのまちとしてより発展していくのではないのでしょうか。

■がんばれ！受験生

今年は新型コロナウイルスの影響で、いつもの年より短い夏休みとなりましたが、例年通り中学校3年生を対象とした「学力向上プロジェクト 大崎町学力アップセミナー」を開催し50名の生徒が参加しました。4日間という短い期間でしたが、集中して問題に取り組む姿がみられました。



▲講師に質問する生徒たち

▼教えあいながら問題を解く生徒たち



僕の夢 私の夢 『頼られる看護師へ』

No.42

大崎中学校 3年 新川 喜菜 はるな

私が本気で「看護師になりたい」と思い始めたのは中学二年の夏休み。ある映画を父と見て医者や看護師の魅力を知り、その時から看護師について調べるようになった。調べれば調べるほど想像以上に大変な仕事だということを知った。人の命をあずかる仕事。大きな責任もある。しかし、人と関わることができる楽しさや人の命を救える嬉しさは他のどの仕事でも感じられないだろう。やりがいを感じている人もたくさんいると思う。

看護師になるために「国家試験に合格する」ということは当たり前で、その他にも周りの人を元気にする明るさや、コミュニケーション能力が備わっていなければならない。幼い時の私はとても恥ずかしがり屋で、家族以外の前ではずっと泣いているほど人と関わるのが苦手だった。しかし、習い事を始めたり部活動に所属したりとたくさんの人と関わっていく中で、人と関わるのが好きになった。周りの人を笑顔にすることができたときの嬉しさを知った。だからもっとたくさんの人を笑顔にするために看護師になりたい。たくさんの人の笑顔が見たいと思う。

あと八か月もしたら中学校を卒業し高校生活がスタートする。現在、私は看護科進学に向けて勉強を頑張っているところだ。目標はもっているだけでは意味がない。達成するために目標がある。看護師になるという夢を叶えるために努力することを忘れず1歩1歩前に進んでいきたいと思う。そして、みんなに頼られる看護師を目指したい。